

令和7年度 全国学力・学習状況調査における本校の結果について

すでに報道でもありましたように、文部科学省は、今年度実施しました全国学力・学習状況調査の結果を公表しました。今年度は、3教科（国語・数学・理科）と、生徒の学習習慣や生活の諸側面に関する調査（質問紙調査）も行われました。ただし、理科の調査は、オンライン上で、各学校で日を設定し、問題の一部を変えて実施しています。

3年生並びに保護者の皆様には、次のとおり調査結果の概要をお知らせします。

1 調査対象・実施日

第3学年・国語・数学：令和7年4月17日（木） 質問紙調査（オンライン）・理科：令和7年4月16日（水）

2 留意事項

本調査の結果は、国語、数学、理科の全ての領域を網羅したものではありません。学力の特定の一部分であって、学校における教育活動の一側面であることをご承知ください。また、生徒への個人的な評価・評定や進路指導の資料にするものではありません。

3 平均正答率（％）

	国 語	数 学	理 科 ※平均IRTスコア
全 国	54.3	48.3	50.3
愛媛県	54	46	49.9

※平均IRTスコアとは、異なる問題の結果を比較することができる指標の1つです。基準が500となるようになっていきます。

4 本校の結果の考察

	良かった点	課 題	改 善 点	今後の学力向上への 取り組み
国 語	平均正答率や中央値は、全国や愛媛県の結果と大きな差はなかったが、選択肢がある問題の正答率は愛媛県や全国を上回っていました。また、記述で解答する問題では、必要な条件のうち、いくつかは満たしている解答ができています。このことから、国語科における基礎となる知識は、身につけていると考えられます。	記述問題では、必要な条件を全て満たす解答ができた生徒の割合が低く、また無回答率が高かったです。これらの点から、記述問題への苦手意識があること、問われていることを正確に捉えて適切な文章で解答する練習が不足していることが課題であると考えられます。	記述問題への苦手意識を克服するために、定期テスト等で、いくつかの条件を満たして記述する形式の問題を出題し、情報量の多い文章や設問に慣れたり、正しく読み取って文章を組み立てる練習をしたりすることができるようになります。	基礎的な知識をより定着させながら、身に付けた知識を生かしたり、正確に文章を読み取りながら自分で文章を組み立てたりすることができる学習活動や機会を増やします。
数 学	愛媛県や全国の平均正答率と中央値を上回っており、学習内容の定着が確認できます。また、正答数が7問以下の生徒数の割合が愛媛県や全国よりも全体的に低い点も確認できます。	愛媛県や全国の標準偏差よりも高く、学力の二極化が生じていることが考えられます。そのため、数学に苦手意識を持つ生徒に対する支援が必要と考えられます。	基礎的・基本的な学習内容は定着していると考えられるため、それらを活用して思考力・判断力・表現力を養う授業づくりをしていきたいと考えています。	基礎的・基本的な学習内容の定着を図りながら、それらを用いて思考・判断・表現する学習活動を増やしていきます。

理 科	全国共通と思われる大問1の平均正答率は、全国と同じです。本校の割り当てである大問3と6の平均正答率は、全国及び県を上回っており、その結果IRTスコア集計値は、全国及び県を大きく上回っています。全体的に学習内容がきちんと定着していると言えます。	無回答率は低いですが、記述問題の正答率が全国及び県を下回っています。記述問題に対する苦手意識の克服が課題です。	復習や振り返りにより、基礎的・基本的な学習内容は定着していると思われます。これからは、その学習内容を用いて、自分の考えがきちんと表現できるような時間と場の設定をしたい。	基礎的・基本的な学習内容の定着を図りながら、それらを用いて表現する学習活動を増やしていきます。
--------	---	---	--	---

	基本的生活習慣等	家庭学習、教科の学習、ICT機器の活用について
質 問 紙 調 査 の 結 果	ほとんどの生徒が基本的生活習慣が身に付いており、朝は同じ時間に起き、朝食をしっかりと食べて登校できているようです。寝る時間はあまり一定の時間には決まっておらず、宿題等などの状況で前後していることが推測されます。 「自分にはよりどころがある」「先生がよいところを認めてくれている」と多くの生徒が感じています。友人関係に満足しており、学校に行くのが楽しいと感じている生徒、困っている友人を助けると回答している生徒が多いです。 将来の夢や目標を持っている生徒の割合も県平均、全国平均を上回っていますが、無回答の生徒の割合が高く、この生徒達は夢や目標を持てているのかどうかわかりません。夢や目標を持つと取り組み方が変わってくることも多々あるので、学校においてもさらにキャリア教育を推進していき、困りごとや不安がある時には相談できるような体制作りをしていきたいです。	「学校の授業以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」に3時間以上と回答した割合が、全国、愛媛県の回答率に比べ大幅に下回っています。通塾している生徒が半数近くいますが、家庭学習の習慣がまだまだ身に付いていないことが伺えます。 「数学の授業内容はよくわかりますか」という問いに対して全国、愛媛県の平均を上回っていますが、「国語の授業内容はよくわかりますか」という問いに対しては下回っています。国語が苦手と感じている生徒が多く、その多くが読解力に困難を感じているようです。情報を読み取る力や活用する力を付けるために、新聞等活字を読むこと、自分の考えを文としてまとめていくことなど、学校の授業等でも取り組みますが、家庭でもできることを考え実践してほしいです。ICT機器を活用して学ぶ力については、これからも各教科、教育活動のあらゆる場面で効果的に使用する機会を増やし、さらなる学力向上を図ります。

5 今後の学力向上への取組

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果から、本校は全教科の平均正答率・平均IRTスコアが全国・県を上回る一方で、「記述問題」と「学習意欲」に課題があることが明らかになりました。特に、「数学の授業内容はよく分かる」と回答した生徒が多い一方、「国語の授業内容はよく分かる」が県平均を下回るなど、教科ごとの差も見られます。これらの課題を克服するため、今後は以下の取り組みを推進します。

①各教科で、身につけた基礎的な知識を応用し、自分の考えを表現する学習活動を増やすことで、「思考力・表現力」の育成に努めます。

②授業においてICT機器をさらに工夫して活用し、生徒の主体的な学びを促進します。

生徒一人ひとりの「なぜ」「もっと学びたい」という気持ちを大切に、自律した学習者としてさらなる学力向上を目指します。今後も本校教育の推進に向け、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。